

お海洋教育ネットワーク通信 NO. 2 2017年5月31日



旭小学校で、海洋教育コーナーを作ったところ、子どもたちをはじめ、保護者や地域の皆さんが、手に入れた海の生き物を次々にもってきてくれるようになりました。地元の皆さんの応援はうれしいですね。

今では、大きな水槽4つに入りきれないほどの生き物が、子どもたちの興味、関心を集めています。

取材した時も、タツノオトシゴ、トラザメ、アナゴ、オニカサゴや珍しいカニや深海魚、



まるで熱帯魚のような魚まで、数多くの生物が飼育されていました。小学校を中心に、地域の皆さんの海洋教育に対する盛り上がりが見られます。

海洋教育コーナーには、水槽以外にも本研究所から配布した救命浮き輪やアクアスコープ等の海洋教育関連物品や、海洋関連の図書もそろっています。また、学校で取り組んだワカメの種差しや収穫の様子のもとめ等も展示されています。



29日(月)には、三崎小学校で、6年生が海の生き物について調べたことを発表し合いました。子どもたちが、自分たちで授業を作っていることを強く感じ、たいへん感心しました。

授業者(佐藤美沙樹先生)の観察記録より一部紹介します。

・クサフグの産卵について調べている子が発表しました。すると、見たことがあるという子が話を続けます。かなりの目撃情報から、クサフグが三崎にいることが分かりました。

子どもたちは、図鑑だけでなく実際にその生き物を見てみることを勉強になると考えています。

・サメはとっても怖いというイメージがありますが、子どもたちには大人気。調べていると、とってもかわいいお顔のサメに出会いました。トラザメです。顔が笑っているようで、エイのようにも見えます。サメの人气が一気に高まりました。

その他にも、この授業には、学び合いの場面がたくさんありました。

三崎小学校にも、最近、海洋教室ができました。これから内容を充実させていくそうです。



海洋教育についてのお問い合わせは、本研究所まで (046-854-9443)